

シリーズ 四国霊場を歩く(10)

阿波路の霊場を歩く(3)

－空海の修行地・最古の遍路道－



愛媛大学法文学部教授
四国遍路・世界の巡礼研究センター長
胡 光 (えへす ひかる)

阿波路を歩く

津屋崎村（福岡県福津市）の豪商佐治家一行7人が、江戸時代の弘化2年（1845）に行った四国遍路の記録「四国日記」（佐治洋一氏蔵、福岡県立図書館保管）を読み進めます。船で三津浜に上陸し、太山寺を打ち初めに四国を北上、55日で一周します。日記には、日々の歩いた距離、札所数、接待数、宿泊場所、費用、食事などが詳細に記録されており、阿波路に入って9日目をむかえています。中角村（勝浦町）百姓家を出発し、山道へ入っていきます。

穴禅定で修行体験

4月13日未明から準備をして、二十番札所鶴林寺（勝浦町）へ参ります。その途上で、鶴林寺とは逆方向・北西の山中に入り、奥の院慈眼寺（上勝町）に立ち寄りました。寺に入る前に、約7km手前の灌頂が滝へ向かい、来光とともに日に一度不動明王が現れるという不思議な滝で水をいただきます。谷を登り、慈眼寺に到着しました。

ここには、「穴禅定^{あなぜんじょう}」と呼ばれ、弘法大師が修行をしたという鍾乳洞があります。せまく長い洞穴のため、55文で借りた十徳（薄い道着）のみを着用して、蠟燭を持ち、先達に従って穴に入ります。様々な仏や竜、鳳凰など不思議な岩の姿を見ながら蔵王権現に参って戻りました。

現在も先達に続いて蠟燭で進み、約1時間半で戻る穴禅定が予約制で行われています。

この日は、慈眼寺のみで終わりです。

元の道に戻り、棚野村（勝浦町）の百姓森之丞宅に宿を借ります。ここも善根で無料でした。



二十番札所鶴林寺

鶴林寺と太龍寺

翌日は、大雨の中、鶴林寺を目指します。北側から約2km急坂を登り、到着しました。本堂の地蔵菩薩を拝し、左側の小高い所の大師堂に参ります。見事な寺院で、殿様普請すなわち徳島藩主・蜂須賀公の建築であろうと記されています。

南側へ約3km下り、麓で朝食をとります。那珂川を渡し船で越えますが、やはり阿波国の渡し船は善根＝無料でした。

約2km急坂を登り、二十一番札所太龍寺（阿南市）へ着きました。本尊は虚空蔵菩薩で、右の門の奥に大師堂があります。石段や仁王門は見事で、ここも殿様普請と記します。太陽が見えないほど木々が繁っていました。

40丁ほど東へ下ると、弘法大師の修行場や岩屋の不動明王があり、ここの庵で昼食をとります。少し下ると竜の岩屋という大きな洞穴がありました。竜の岩屋は、様々な絵画としても描かれた名所で、松明を持って入ると、轟音で水が流れ、

千畳敷という広大な空間があったとされますが、詳細な記述はありません。この日は、道も険しく、風光明媚な場所だったはずですが、大雨のせい、全体的に記録が少ないようです。現在、竜の岩屋は採石場となっており、残念ながらその面影をみることはできません。

その後、二十二番札所平等寺がある新野村まで歩きます。同村では、善根を申し出た百姓儀作の家に泊まりました。



国指定史跡阿波遍路道「鶴林寺道」



二十一番札所太龍寺

空海の修行場－四国最古の遍路道

本日記では、記述が少なかったこの地域は、空海の著作に修行地として記された数少ない場所で、全国に広がる弘法大師の修行地という伝説とは異なる、歴史上の重要地域です。

さらに、太龍寺山の麓、阿南市加茂町の一宿寺から太龍寺へ至る4km余りの「かも道」は四国最古の遍路道と呼ばれています。それは、南北朝時代(1336～1392)の年号が記された丁石(寺までの距離を記した標石)が残っているからです。近年、徳島大学の調査で、丁石の産地は神戸市の六甲山系であることが分かりました。「かも道」は、鶴林寺と太龍寺をつなぐ「太龍寺道」から外れていますが、江戸時代にできた最初のガイドブック、真念『四国辺路道指南』にも「大師

御行脚のすぢ」として紹介されています。

実際に歩いてみると、最初と最後が急な坂道で、あとはおおむね、なだらかな尾根道となっています。原生林が残る古道は、空海修行地の姿を今に伝えていきます。竹林に覆われた「青の道」、石灰岩が露出する「白の道」、和歌山まで見渡せる眺望など、険しい中にも美しい風景が広がっています。

さらに、弘法大師が鶴林寺へ飛んで行った跡地の大師像や拳で受け止めた岩、太龍寺へ少しずつ近づいているにじり石など多くの伝説に彩られた聖地でもあります。太龍寺に到着してからも、八十八ヶ所の写し霊場がある急峻な脇道へさらに歩を進めると、大師の修行地跡とされる「舎心ヶ嶽」へ出ます。足がすくむ修行場には、巨大な大師像が鎮座しており、西日本最長の太龍寺ロープウェイからもよく見えます。

四国遍路は、世界遺産登録を目指しており、世界遺産にふさわしい霊場や遍路道を調査し、国史跡指定を行っています。2010年、最初の指定地が阿波遍路道「鶴林寺道・太龍寺道・いわや道」でした。廃道だった「かも道」も市民の手で復活し、2015年に追加指定されました。



国指定史跡阿波遍路道「かも道」

【参考文献】

伊予史談会『四国遍路記集』伊予史談会双書、1981
塚本明・近藤浩二・胡光「巡礼と『道中日記』の諸相」『2013年度四国遍路と世界の巡礼公開講演会・公開シンポジウムプロシーディングズ』愛媛大学「四国遍路と世界の巡礼」研究会、2014
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』ちくま新書、2020
愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路と世界の巡礼(上) 最新研究にふれる八十八話』創風社出版、2022